

（午前10時35分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番16、19番 小西君。

〔19番（小西政宏君）登壇〕

○19番（小西政宏君）おはようございます。

3日目2番バッターとして頑張っていきます。きのうに続きまして、テンポよく進めていけたらなと思っております。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問を行います。

今回は2項目通告させていただいております。

1項目め、橋本市の美化と企業の地域貢献について。

本市では、厳しい財政状況の中、市長のリーダーシップのもとさまざまな事業を見直し、改革を実施しておるわけではありますが、依然、財政状況は厳しい状態であると認識しており、我々議員、議会としてもさらなる努力が必要であると考えております。

そこで、今回は、本市の美化、また企業の地域貢献に絞って質問いたします。

市内全域の除草、剪定等委託料の総合計をお聞きいたします。

次に、2項目め、中学校における制服リユースについて。

昔は近所の知り合いからお古の学生服などをいただく機会などが多くあったと認識しておりますが、近年は近所つき合いが希薄になり、このような機会が少なくなったと認識しています。

そこで、以下、質問いたします。

現在、市内中学校で市、学校として制服を集めるなど、リユース活動の現状があるのかお聞きいたします。

以上、2項目、よろしく願いいたします。

○議長（中本正人君）19番 小西君の質問項目1、橋本市の美化と企業の地域貢献に対する答弁を求めます。

建設部長。

〔建設部長（埴阪 隆君）登壇〕

○建設部長（埴阪 隆君）橋本市の美化と企業の地域貢献についてお答えします。

市内全域の除草、剪定等委託料の総合計については、平成27年度に除草・剪定・草刈り等を委託業務として発注した費用は、市全体で約2,100万円となっています。また、これ以外に、道路・緑地・公園等の管理業務にも除草や剪定等の費用が含まれており、建設部では昨年度約8,600万円となっています。

○議長（中本正人君）19番 小西君、再質問ありますか。

19番 小西君。

○19番（小西政宏君）かなりテンポよく進んでいると思います。今、答弁をいただきましたように、市全体では約8,600万円ぐらいあるのかなと。ほんで、また、すり合わせのときには、企業誘致のほうとかでも若干ではありますがありますけども、除草の作業とかがあるかなというふうには聞かせていただいています。

考えることがあるんですけども、草刈りであつたりとか、除草の作業というんですか、今後、私的には、今後この橋本市という地域でいうたら増えていくのかなと。だから、財政的にもどンドン歳出の観点で増えていくのかなと僕は考えてはおるんですけども、その

辺の当局の見解、また対策等がもしあるのであれば、一度お聞かせいただけますでしょうか。

○議長（中本正人君）建設部長。

○建設部長（塙阪 隆君）道路とか、公園といった公共施設につきましては、年々増加しているという状況でございます。そうしたことから、それに伴います維持管理等についても、今後増加していくのかなというふうには考えております。

費用面については、なかなかこれといった決定的な対策はないわけですが、何とか経費の削減についての検討については行っていきたいというふうに思っております。

○議長（中本正人君）19番 小西君。

○19番（小西政宏君）ありがとうございます。今後、増加していくであろうというお答えかなって。それで、特効薬といいますか、対策というのは、今、現時点ではないのかなというふうな答弁であったかなと思います。

通告もさせていただいています企業の地域貢献という、そんな書き方もさせていただいてんですけど、最近、アダプト・プログラムというんですか。市民と行政が協働で進める清掃活動とかって、アダプト制度とかってよくお聞きすると思うんですけども、こんな取り組み、制度として取り組んではなかったも、そんな地域の方が除草であったりとか、草刈りとかってしていただいている実例があるのかというのと、また、このアダプト・プログラム、アダプト制度について当局のほうのお考えがもしあるのであれば、一点お聞かせください。

○議長（中本正人君）建設部長。

○建設部長（塙阪 隆君）ただ今のアダプト制度ですけども、一応名前というかは以前から存じとったわけでございますけども、今回、ご質問をいただいて、いろんな取り組みにつ

いていろいろ調べてみました。この制度は、一般的に、公共施設の里親制度というような言い方もあるようでございまして、道路とか公園とかそういったところを養子に見立てまして、民間であるとか、住民の方が親となって取り組んでいくということで、行政とそういう市民の方が協定を結んで、ボランティアの形で取り組んでいくという制度であるというふうに勉強させていただきました。

これについては、全国的に、いろいろ取り組みもされているところというのがあるわけでございますけども、それ以外にもいろんな取り組みが全国的にあるということで、という状況でございます。

○議長（中本正人君）19番 小西君。

○19番（小西政宏君）ありがとうございます。今、現在そのように市民の方がどこか管理していただいているとかというのはあるんですかね。その点、もう一回だけお聞かせください。

○議長（中本正人君）建設部長。

○建設部長（塙阪 隆君）一部の活動で協力をいただいているというものは、建設部のほうでもございます。

○議長（中本正人君）19番 小西君。

○19番（小西政宏君）ありがとうございます。ことで、本当に地域貢献といいますか、行政だけでできることというのは非常に限られてくる。で、民間の力であったりとか、市民の力であったりとかというそういう活力というのを、どんどん行政のほうにかかわっていただけたらいいかなと思う中で、今、現在、市民の方、住民の方々がそうやって管理をしていただいているのも、実際、現実としては一部あるんだということで、今回、お伝えさせていただいたのは、僕は民間企業に限って地域貢献という形で何かできないかなということなんですけども、そこで、草刈

り云々という話になっています。

滋賀県のほうでは、美知メセナ制度という取り組みをやっています、簡単に説明すると、繰り返しになりますけど企業の方々に、道路愛護活動、いわゆるボランティアで、街路樹の剪定や草刈りをしていただく制度、そんな制度を滋賀県のほうでは多くやられているという事例があったんです。

この制度の主な目的は二つです。一つは、先ほどからもお伝えさせていただいているかな、歳出の削減を行政としてはメリットとしてやっていきたいと、もう一つ、まちの美化活動、まちがきれいになるということは市民にとってもいいことであると。この二つを大きな目的としてやってはおるんですけども、滋賀県下では、県が推奨して言うてるんですけど、各地方自治体に見合った形で、さまざまな形で道メセナというのがされているんですね。

それはどういうことかといったら、先ほどからお話しさせていただいているように、街路樹であったり、道路の草刈りであったりというのももちろんそうなんですけども、河川の草の伐採であったりとかというふうに、さまざまな形でされているのがあるんです。と思っているんですけども、また、本市でもこんな制度を使って企業の皆さんにボランティアとして草刈りなどに取り組んでいただく制度をつくっていくというのも非常に有効かなとは考えてはおるんですけども、当局の見解をお聞きいたします。

○議長（中本正人君）建設部長。

○建設部長（塙阪 隆君）近年、道路のそういった維持管理等について、企業であるとか、団体、それから、一般の市民の方との連携による取り組みが増加しているということについては認識しております。

行政にとりましては、そういった管理部分

についてボランティアで協力をいただけるということでもありますとか、何より道路の環境でありますとか、あるいは景観の形成と、そういったところにかかわっていただくことで非常に関心を持っていただけるというような意味で、大変有意義な制度であったり、活動であったりというふうには思っております。

一方で、そういう有意義な活動であるがゆえに、やはり継続をしていくというか、そういうことが非常に重要になってくると思うんですけども、何にしましても中身がボランティアでございますので、やはりそういう取り組みを継続していく上ではいろいろな課題とか、問題とかというのは現実にはあるんじゃないかなというふうにも思っています。

そのほか、本市において、例えば、採用していくということになってきますと、現在、市の清掃とか草刈り等についてはシルバー人材センターにほとんどお願いをしとるわけですけども、そういったところとの活動量というんですか、そういったところのバランスというようなものも当然考えていかなければならないというふうなことも考えております。

そういうことから、今、考えておりますのは、まず先進の自治体でありますとか、あるいは県、国等でもそういった取り組みをされているというのも聞いておりますので、まずそういったところの実績であるとか、その内容について、特に課題点等については、ぜひ調査とか、研究をまずはしてみたいというふうに思っております。

その上で企業だけでなく、一般の住民の方、それから、各種団体とのそういった活動、いろんな連携の仕方があると思うんですけども、そういったものについて、今後、市としても問題がないと考えられるような取り組みについては考えていきたいというふうに思っております。

○議長（中本正人君）19番 小西君。

○19番（小西政宏君）ありがとうございます。
答えとしては、1回調査研究して、前向いて1回調べてみるよというふうに僕は捉えさせてはいただいておりますけども、言うていただいたように、有意義なやつではあるけども、課題も確かに出てくるのではないかと。多分、本当にそのとおりやと思います。

という中で、もうちょっとほり下げて話をしてみると、メリットのほうももうちょっとあるのかなって。言うてみると、企業の社員の教育であったりとか、企業のPR、企業のイメージっていうんですか、そんなんってすごく非常に民間企業は重視されておると思うんですけど、その辺をまたどうやってやっていくんかということで、また事例一つを言ったら、滋賀県ではこのように看板がありまして、清掃していただいたところに企業名を書いた看板、何々会社が管理していますよというふうな看板をまちのその管理していただいているところに設置をしていくという、またそういうふうな企業PRの仕方であったりとか、また看板を置くことによって、極端に言うたら、そんな民間企業がちゃんと草を刈れるんかよ、丁寧にできるんかいというところも気になるとは思うんですけど、こうやって名前を出すことによって、逆に皆さん丁寧にやってくれるというふうな、そんな形でもあったりします。

話を戻すと、課題というのももちろんあります。まず第一に思うのは、やっぱりそんな民間企業が手を挙げてくれるんかよというふうな話にもなってくると思います。僕はやりたいんですけどね。ですけど、それでちょっと調べてみたのが、滋賀県の栗東市、人口規模もだいたい似ていますし、だいたい民間事業者も同じような感じである栗東市を調べてみたら、栗東市では3年目なんです、まだ

やられて。今、全体で15社がそういうふうにボランティアとして手を挙げてやっていたいているというのがございます。

シルバー人材センターの兼ね合いももちろんございます。極端に言うたら、シルバー人材センターでお仕事をやっていただいているものを、急にがぼっと仕事をとってしまうって、そんなことは行政としてやってはいかんとは思いますが、歳出削減というそこまで効果がすぐ出せないというのも、逆に言うたら、この15社というところで見えているのかなと思います。ただ、結果として、3年やっていく上で、1年目は6社、2年目が5社追加で、3年目が4社追加というように、徐々に徐々に地域の方にご理解をいただいて、徐々に削減を行っていかれているというのが、今、滋賀県でいうたらそんな感じですよ。

また違う事例でいくと、実際、今もう民間の業者で、自分の会社の周りの地域の清掃をやっていただいたりとか、草刈りをやっていただいているような、非常に前向きな業者もいらっしゃいます。去年のほうでは教育委員会のほうで、運送会社なんですけども、何か地域のために貢献したいんやって。一生懸命考えて、そしたら、運送会社ですから交通安全のために何か送れるものがないかなって、そういうふうにご一生懸命考えて、地域貢献、社会的責任を果たそうとしている民間業者もたくさん、僕は感じているのが現状なんです。

話ししたように、確かにこの1年、2年ですぐ規模として、お金の見える形として削減ってかなり大きくなっていくとは思わないんですけども、ただ一つ言えることは、確実に、この委託料、この予算というのは増えていくのは事実であると。ですから、20年後このまま放置して、20年後に、あーあ、もうこんななってもうたよと言うんではなくて、本当

に少ない削減額かもしれませんが、10年、20年先を見たときに、今、この制度をやって、ちょっとずつでも削減してきとってよかった、結果、20年後こんだけで抑えれとるというふうな結果を、今から少しずつではあるけれども、やっぱり取り組んでいかななくてはいかなのかなというふうに思います。

29年度には、また実際、予算を組むのも難しいのかなと、そんな声も聞かれるぐらい財政が厳しい。厳しい厳しい、何とか乗り越えていくんだけど、このまちと、このまちに生きる人というのは、ずっとこのまちでおるわけですから、先を見据えて少しずつでもこういうふうな取り組みをしていけたらいいかなとは考えています。その点、どのようにお考えか、もう一回お聞かせください。

○議長（中本正人君）建設部長。

○建設部長（塙阪 隆君）今、ご意見をいただきましたように、この活動によって将来的にどれほどの効果があるというのはちょっと読めませんが、維持管理の低コスト化につながっていくという部分もございまして、先ほども言いましたけども、いろんなそれ以外の部分でも有意義なものだと思いますので、とにかく、まずは積極的に調査なりから始めたいというふうに思います。

○議長（中本正人君）19番 小西君。

○19番（小西政宏君）ありがとうございます。とりあえず、積極的に1回調査をしていただけるということなので、よろしくお願いたします。

ちょっと言い忘れていたんですけど、こうやって民間の企業とかがまちへ出て、どんどんボランティアとかしていただくことで、やっぱりその従業員であるとか、その会社にかかわっていく方々というのがやっぱり、またもっと橋本市に愛着を持っていたりとか、今回は企業の話に絞ってお

話はしていますけども、そういうふうなまちのために何かをしていきたいんやって、何かをしていくというそういう活動が、市民の方々に見えるというのもまた市民全体の、市町における市民協働っていうんですか、そこにまた波及していただけるんじゃないかと思ってるんで、またぜひよろしくお願したいと思います。

最後にちょっともう一点、お願いというか、提案がございまして。というのは、この橋本市役所の周辺駐車場とかの整備、表の街路樹の剪定とか、あれもたしか委託に出されて、何十万かお金がかかっていたと思います。これ、ちょっと皆さんに提案なんですけど、それも、市の職員で有志でできないかなと。そんなをやっている市役所もあったんです、実際、自分のところは自分らで1回やってみようよというそんな話もあった。もちろん、我々議会にもお声をかけていただいたら、議会も有志で、多分、来ていただける方は絶対来ていただけると思うんで、そうやってできるところから、確かに削減幅というのはちっちゃいかもしれないですけど、やっぱりそういうところを見せていくというのも大事なと思うんですが、その点、市長、どうですか。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）小西議員の質問にお答えをします。

本当にスクラップという部分でいろいろ考えていただきまして、ありがとうございます。いい質問をしていただいてありがとうございます。確かに、職員でやるということも大事ですし、今できるところはやるようにしていこうと思っています。ただ、剪定であるとか、そういうところが、果たして剪定の技術がどんなものなのかという不安もあります。見た目、なんという剪定をしているんやとい

うようなことを言われますと、なかなか難しいのかなという部分もあります。

確かにそういう面で、実は市長室の前に木がありますよね。あれ、実は、懸垂幕とかをおろすのに邪魔になるので、実はあれ、職員に切らせているんですよ。シルバー人材センターに委託してあったんですけど、もう先に切れと。そういうことも実際にやっています。これからそういうことも含めて、自分たちでできることは自分たちでやっていく必要があるのかなというふうには、議員のおたおたとおり、そのとおりだと思います。できるだけ自分らでできることは、自分らでやっていくというふうに考えています。

ただ、シルバー人材センターの問題もありますので、シルバー人材センターから仕事を奪えば、逆にそこに今、2,000万円出していますが、ひょっとしたら上乘せをせなあかんとか、シルバー人材センターに対してほかに新しい仕事を出していかなあかんというふうな、相殺すると逆にあまり変われへんのかなというようなケースも考えられますので、その辺についても慎重に考えていきたい。やはりシルバー人材センターがある以上、仕事を奪うことはできひんので。

そして、もう一点、道路の管理もそうなんですけども、今、例えば、真土にある万葉の里、ありますよね。あそこも高齢化率が非常に高くなってきて、そこの維持がだんだん難しくなっています。いろいろ、今、真土区からも提案をいただいているんですけども、今、企画政策室にも指示を出しているんですけど、ここをボランティアの方と真土の方で守っていただくような、そういうことが、これはもう企業、入ってもらってもええんですけども、一つの区でできないことを市民の皆さんや企業の皆さんに協力をしてもらってやっていくということは、財政的にはあまり関

係ない部分なんですけども、そのところをいかに守っていくかというのが、これからいろいろ出てくると思うんですよ。

今回は真土だけなんですけども、ほかの地域も考えていかなあかんということで、非常に大切に守ってきていただいた施設を、いかに今度は守っていくか、高齢化の流れというのはそういうところもあるんです。今、地域によって、道掃除も9月の第1週にやってもらっていますけども、高齢化によってだんだん、それもいつまでやっていただけるのかわからないような現状の中で、議員ご提案のとおり、やはりいろんな人を巻き込んでやっていくというのは非常に大切なことですので、職員も各地域でおるんで、道掃除には出ていると思いますけど、確認はしていませんけども、そういうふういろんな形でできていったらなど。

憩いの広場って、市脇の橋本高野橋の下に、あそこは市の職員と民間企業と一緒に憩いの広場というのをつくっていただいて、その草刈りであるとか、そういうのをやってもらっているんで、あそこをああいような見本の形でさらにほかの地域も進めていけたらなどというふうに思っております。十分検討をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

○議長（中本正人君）19番 小西君。

○19番（小西政宏君）ありがとうございます。やっぱり万葉の里であるとか、今後、管理していかなあかんというのがどんどん増えてきて、地域の高齢化であるとかという、今まであったパワーというのがどんどん弱くなっていくというのもやっぱり現実なので、市長が言っていただいたように、少しでも民間企業であるとかという新たな形というのを、またつくっていただけたらなどと思っております。

もちろん、シルバー人材センターの仕事の

件もございます。僕個人的には、6月議会でお伝えさえてもうたように、広報のポスティングというのをまたシルバー人材センターにお願いするって、またこんなも一つかなと思いますので、また考えていつにだけたらなと思います。

あと一つ余談ですけども、実は剪定の技術のお話があったと思うんですけど、僕、もともと造園屋で働いていまして、剪定、松でも何でもばりばりできますので、3年ぐらい修行していたので何でもできますので、「小西、来い」と言うていただいたら、ぜひボランティアで、僕、先頭に立ってやらせていただきますので、行けたらなと思います。

そしたら、また十分検討していただいて、これが実現するようにとお願いをいたしまして、1項目めを終わらせていただきます。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、中学校における制服リユースに対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（小林俊治君）登壇〕

○教育長（小林俊治君）次に、中学校における制服リユースについてお答えします。

橋本市立の中学校は、平成28年3月に、西部中学校、橋本中学校、学文路中学校が廃校となりましたので、現在、3中学校が統合した橋本中央中学校、隅田中学校、紀見東中学校、紀見北中学校、高野口中学校の5校となっています。

制服のリユースについては、現在、学校の取り組みとしては行ってはいません。しかしながら、学校によっては個別に対応しているところがあります。

例えば、橋本中央中学校では、体操服を卒業生から学校へ寄贈してもらい、貸し出し用にストックしています。また、紀見東中学校では、教師が保護者からそのような相談を受

けた際には、卒業生に寄贈のお願いをしたりしています。あるいは、卒業生の方から自発的に寄贈したいと申し出てもらえる場合もあります。

ただし、男子の詰襟学生服につきましては、高校に行ってもボタンを変えれば使えることもあり、中学校卒業後も引き続き使用しているケースもあるようです。

いずれにしましても、学校を通じてのリユースというよりも、主に保護者同士の個々のつながりの中でリユースしているというのが現状です。

○議長（中本正人君）19番 小西君、再質問ありますか。

19番 小西君。

○19番（小西政宏君）ありがとうございます。今の現状としては、個々に学校で管理しているものを相談があったらお渡ししているとかというふうなことで、保護者同士の中でリユースをしているのが現状というのが橋本市内の中学校であると。今、小学校はどんな感じなのか、お聞かせください。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）例えば、例を挙げますと、授業参観終了後に寄贈いただいた体操服、また小学校によっては制服もございますが、それを配布といいますか、陳列をして持って帰っていただくというふうな手法でしている学校もありますし、またバザーで格安に販売している小学校もございます。バザーで販売の場合は4校、それから、先にお話しさせていただいた授業参観終了後等で無償で配布している学校が5校、計9校ございます。

○議長（中本正人君）19番 小西君。

○19番（小西政宏君）ありがとうございます。えらい小学校では進んでいるんやなというのがすごい実感としてあります。ほんで、僕も調べさせていただいたら、ある小学校では制

服交換会というのをわざわざつくって、これも聞いた話なんですけど、ある小学校では、そういった会を利用して、制服を、使わなくなったものをリユースするという取り組みももちろんやられている。その場を利用しておき、地域の方々のコミュニティの場といたしますか、意見交換、先ほどもお話あったけども近所づき合いがどんどん減ってきたというのもあるので、そんな場になっている、利用しているというのも現状としてあるって小学校では聞いています。

もう簡単な話なんですけど、こんな制度というか形を中学校でもできたらいいよなと思ったのがあって、もともとの話で行きますと、実は小学校でリユース活動で制服をもらったんやと。ほんで、次、中学校へ行くんだけど、「制服が8万円するんやってよ、小西。どないかそんな制度ないんかい」というふうなお電話があって、声をいただいたのがほんま現状であったと。本当に小学校のときはその制度で助かったというふうな家庭もあるというのが現状で、先ほどお話をいただいたように、学校側に相談できる方というのは、学校で対応していただいたらそれはそれでいいと思うんですけども、いろんな事情があったり、学校に相談できない、地域の住民の方にそういうリユースでもらうような人間関係も形成できていない方というのもやっぱりいらっしゃるといっても現実やと思います。

ですから、こういった形を中学校でまた制服を集めていただいて、やっていただくのも一つなんかなと思うんですけども、教育長、1回、見解をお願いいたします。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）議員おただしの件ですが、まず私たちは入学時に制服が必要かなと思っています、そういうご家庭については。そういう意味でいうと、入学説明会等が小学

校で行われますので、一旦制服をご家庭から寄贈いただいて、入学説明会等で配列をして、お持ち帰りいただくという一つの方法があると思います。

ただ、その場合、主体はどこかといいますと、やはり基本はPTAではないかなと思っていますので、PTAが主体になって学校と協力しながら取り組んでいく。また、課題としては、クリーニングをどうしていくかということもございます。制服のクリーニング代、結構かかりますので、その部分もPTAを中心にしながら考えていく必要があるかなと思っています。

○議長（中本正人君）19番 小西君。

○19番（小西政宏君）ありがとうございます。方法というのは、もちろん中学校入学があるので、それまでにももちろん制服というのを渡さんといかんので、方法を言っていただきましたんですけど、それも有効なんですけど、またもう一つの方法としたら、中学校で集めたやつを翌年にはなるんですけど、小・中の連携をしていただいて、小学校のバザーでやっていただくと。小学校の制服交換会をやっているときに、次、中学校を見込んだ方にも来ていただくって、それだけで、1個増やすだけでいいと思うし、逆に中学校でいうと、集めていただくだけで事は足りるのかなって、単純に制度としてできるかなと思うのがあります。

言っていただいた、それは個々の学校で、一番どの形がベストなんかってまた考えてやっていただいたらいいと思いますので、今、お伝えさせていただいたのは、あくまで案でございます。

という中で、今お話しいただいた内容でいうと、PTAがやったらいいんだではないですけど、PTAが、今、主体としてやっていただいているから、PTAがやってくれたら

それはそれでいいよというようなお話だったと思うんですけども、これ、ほんまに、小学校がやっているのが、1個思うのがあるんです。

僕もPTA活動とかに参加させていただいているんですけど、PTAの活動っていろいろあるんですよ。交通部会、何々部会って、僕がかかわっているところでは。ですけど、やっている内容って聞いたら、現実のところ、うちはですよ、よそはすいません、はっきりとわからんけど、ある程度学校で、前年度から引き継ぎの内容をそのままやってみるとか、学校側からこれが必要やから、とりあえずこれ、PTAさん、やってよというふうに、極端に言うたら、あまり意思のない中で仕事を与えられてさせていただいているのが大半だと僕は認識しているんです。

となったときに、PTAでやってもうたらいい。それはもうできるところでやってもうたらいい。学校の先生方の仕事量が増えずに、子どもたちに積極的にやってもらうんだから、PTAでできるんやったらやってもうたらいい。じゃ、教育委員会として何が必要なのってなったら、PTAがきちっとできるまでの協力を教育委員会としてしていただきたいなと思っているんです。その点、教育長、どうですか。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）PTAという組織がごございます。これは、Parent、それからTeacher Associationということになりますので、単に保護者だけの組織ではなくて、教員も入っているというのがPTAの基本的な組織です。だから、保護者と学校とが一緒になって子どもの健全な成長を見守っていく組織としてPTAがあるということ、一定確認させていただいて、教育委員会としては、議員お話しのとおり、いろんな取り組みをされています。

例えば、恋野小学校で、授業参観で回収して、夏休みの環境整備作業で配布していくという、この夏も取り組まれていましたけども、こういういい取り組みについては教育委員会が校長会等でお話をさせていただいて、こういう取り組みもありますよという紹介の中で進めていくという形をとりたいなと思っています。

○議長（中本正人君）19番 小西君。

○19番（小西政宏君）ありがとうございます。教育委員会としてできることをそうやっていただけるということなので、それでできたらええなとは思っています。

以上、終わります。

○議長（中本正人君）19番 小西君の一般質問は終わりました。